

実物大ぬいぐるみを作ってみよう

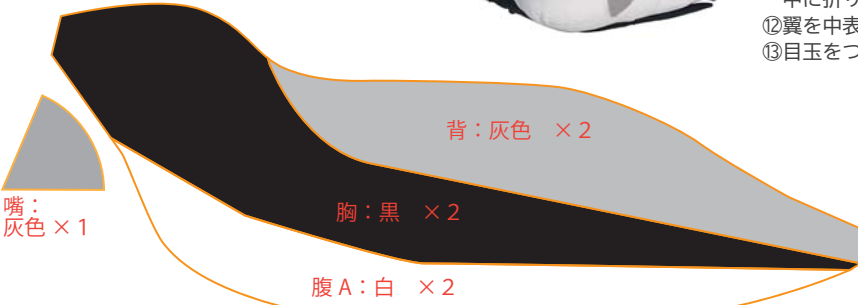
用意するもの

- ・型紙
(下の絵を2倍のサイズでコピーしたもの)
- ・布 (黒、白、灰色)
- ・足用フェルト布 (灰色)
- ・冠羽用レース糸 (黒)
- ・ぬいぐるみ用目 (直径9mm)
- ・綿 ・体重合わせ用釣りの重り



頭：黒 × 1

頭：白 × 1



背：灰色 × 2

胸：黒 × 2

腹A：白 × 2

嘴：
灰色 × 1

喉：黒 × 1

腹B：白 × 1

※完成したら、Facebookの
メッセージなどでぜひ教え
てください！



※注：型紙は素人が作っているのです
少しサイズが合っていないところがある
と思います。申し訳ありませんが、縫う
時に微調整をお願いします。

翼：黒 × 2 点

線で中表であり、出来上
がり線で縫い合わせ、
とじる前に外表に返す

足・表：灰色 × 2

足・裏：灰色 × 2

尾：黒 × 2

作り方

- ①型紙をオレンジ線にそって切り、布に型紙にそって線 (出来上がり線) を書きます。
- ②布に書いた線の周囲に、縫い代を 5~10mm に足したサイズで布を断ちます。
※中表に合わせて縫い合わせます。途中で外表に返します。
- ③背・胸・腹Aを 2 組縫い合わせます。
- ④頭のパーツを冠羽の糸をはさみながら縫い合わせます。
- ⑤③の 2 組を背側で縫い、途中で④の頭のパーツを挟み込んで縫い合わせます。
- ⑥胸の先端に嘴のパーツを縫い合わせ、円錐になるように嘴パーツを縫います。
- ⑦足のパーツは足裏と足表のひれを重ねてブランケットステッチで縫い、ふしよ
になる部分を筒状に丸めて端をブランケットステッチで縫いとめます。
- ⑧腹Bのパーツを縫い合わせる時に足を挟み込み、喉を腹Bと縫い合わせます。
- ⑨胸・腹Aの下線と喉・腹Bを出来上がりに沿って縫い合わせます。
尾側を最後まで縫い留める前に外表にひっくり返します。
- ⑩尾側の穴から綿を詰めます。体重を合わせたいときはこの時におもりを入れて
調整します。
- ⑪尾のパーツの緑色の線の部分を縫い合わせ外表に返します。青い線で縫い代を
中に折り返し、本体の綿を詰めた穴をふさぐようにかぶせ縫い付けます。
- ⑫翼を中表で縫い合わせ、途中で外表に返します。背に縫い付けます。
- ⑬目玉をつけたら完成です。

ご支援のお願い

カンムリウミスズメの保護など当会の活動は皆さま
からの会費やご寄付によって支えられています。気
軽にご支援いただけるように、さまざまな形のご寄
付・ご支援の方法をご案内させていただいていま
す。野鳥をはじめとした多くの生き物が暮らす豊か
な自然を守るための活動に、ご協力をよろしくお願い
いたします。



バードメイト
一口1000円の自然保護！
オリジナルピンバッチの
プレゼント付き寄付

◆お申し込み・お問い合わせ

共生推進企画室

TEL：03-5436-2630 e-mail：kifu@wbsj.org

HP：https://www.wbsj.org/

カンムリウミスズメ保護事業 2020年度活動報告書

公益財団法人日本野鳥の会

自然保護室

東京都品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

TEL 03-5436-2634 FAX 03-5436-2635

2021年10月31日発行

最新情報はこちら

カンムリウミスズメの保護活動の最新情報や調査結
果の速報、特徴や生態などをホームページやSNSで
お知らせしています。日本野鳥の会ホームページの
「当会の活動 - 自然保護活動について - 絶滅危惧種
の保護 - カンムリウミスズメ」に掲載しています。
TwitterやYouTube、Facebookへもリンクしています。



公益財団法人日本野鳥の会
カンムリウミスズメ保護事業
2020年度 活動報告書

Annual Report 2020



日本野鳥の会は、1995年度から三宅島周辺のカンムリウミスズメの調査を三宅島自然ふれあいセンタ
ー・アカコッコ館を拠点に行なってきました。創立75周年を迎えた2009年度からは、伊豆諸島に活動
範囲を広げ、残された繁殖地の保護、営巣地の増加や営巣環境の改善を目指して事業を進めています。

◆ 2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため多くの事業を中止しました。その中で、地
域が中心となっていなかった調査と、途絶えることなく行なう必要がある人工島の設置は実施するこ
とができました。

2020年度、当事業はF氏カンムリ基金、
皆様からのご寄付を基に実施いたしました。



三宅島と当会レンジャー



人工巣とカンムリウミスズメ



えぼしま
烏帽子島



海上のカンムリウミスズメ



上陸中のカンムリウミスズメ



みこもとしま
神子元島

洋上個体数調査

三宅島の沖11kmにある大野原島は、伊豆諸島にあるカンムリウミスズメの重要な繁殖地の1つです。この島のカンムリウミスズメの保護活動は、1957年に三宅島に移住したジャック・T・モイヤー博士が始め、現在も当会および島民により続けられています。毎年4、5月に、三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館を担当する当会レンジャーと島民のグループが協力して、島の周辺を船で航行しながら見られたカンムリウミスズメの個体

数と位置を記録する調査を続けています。2020年は日中に調査を行ない、4月16日には26羽、5月6日には38羽の成鳥を確認することができました。日中は採餌をしていると考えられているため、本調査で確認された場所は採餌場所の可能性があり、主な採餌海域を明らかにすることができれば、営巣地と採餌場所の両方を守ることができ、本種の保護をさらに進められると考えています。

人工巣が烏帽子島でも使われました

カンムリウミスズメは、繁殖のために繰り返し同じ島に戻ってくると考えられています。岩の割れ目や草の根元の窪みなど身を隠せる場所で、地面に直接産座を作り、最大2個の卵を産みます。右下の写真は静岡県下田市にある繁殖地の1つ、神子元島です。この島は繁殖個体数が少ないため、人工巣を設置して営巣数を増やす取り組みを行っています。この年は、神子元島と福岡県の烏帽子島に置いて

た人工巣で孵化をしました。神子元島以外で人工巣が使われたのは初めてです。神子元島で3個、烏帽子島で1個が使われ、全てコンテナボックス製でした。その他7個で産座を作った痕跡が確認できました。2019年に初めてコンテナボックス製の人工巣が使われてから継続して繁殖に使われていること、烏帽子島でも利用されたことから、カンムリウミスズメに巣として認められる人工巣が、ようやく完成形に近づいたと考えています。